

No. 8

Library News

April, 1981

滋賀医科大学附属図書館報

目	次
大学院の発足にあたって	1
POS（問題志向型システム）について	2
シリーズ 文献調査のために〔5〕	5
お知らせ	9
古医書へのご招待 漢方の基本的聖曲	9
図書館の活動	10

大学院の発足にあたって

附属図書館長 尾崎良克

去る3月25日、本学最初の記念すべき卒業式が厳かに挙行政され、一期生81名が目出度く、新しい医師を目指して、学園を巣立って行きました。また、はゞこれと機を一にして、大学院医学研究科の設置が認められ、本学の将来を支える医学研究者、医学教育者、並びに診療従事者の育成に明るい展望が開けるに至りました。医学教育の一翼を担う附属図書館として、慶びに堪えないとともに今後果すべき責務の重大さを痛感する次第であります。

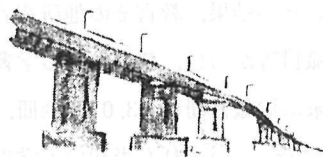
本学附属図書館は、この日に備えて、開館当初の基本方針に基づき、専門図書、雑誌等の基本資料を始め、各種必要資料の整備、充実を図るとともに、機能面では、これら資料が、利用者の1人1人に十分活用してもらえよう、図書館全体の運営と職員の各種サービスを含め、細い配慮を払って参りました。その結果、教官その他研究者からは、便利で機能的な研究図書館として、また、学部学生、医療技術職員等からは、親しまれる学習図書館として評価を受けるに至りました。その内容においては、昨年末に総蔵書冊数53,000余冊、うち専門書41,000余冊、医学および関連領域の学術専門雑誌888種に達し、いずれも当初の大学設置基準を遥かに上廻るのみならず、専門雑誌については、過

去15年間のバックナンバーをほぼ完全に取り揃えるなど、質の面でも誇りうるものになりました。過日実施された大学院設置に関する実地調査において未だ充分とは言えないまでも、高い評価を受けるに至ったのであります。これ偏えに、学長、副学長を始め、全学の教職員の皆様の深い御理解と温い御支援による賜と深く感謝致しております。

第一期生の卒業と大学院の発足を契機に、年々、増え続ける若い学徒の研究・診療面への参加は、医科大学の基本的使命である医学の教育、研究および診療の体制に新鮮な活力を与え、本学が医科大学として、真に自立する原動力となることは疑いありません。学術情報提供の面で、それらの活動を支える附属図書館が、この新しい時代の付託に応える必要のあることは申すまでもありません。先ず図書館の基本的資料である図書、雑誌の収集整備については、飽くまでも当初の基本方針を守り、機会あるごとにその充実を図ってまいります。やゝもすれば、慣習に捉らわれ、硬直し勝ちになる運用を戒め、時機に即した柔軟な姿勢で臨みたいと考えております。学問の進歩に伴う各研究分野の細分化の傾向の中で、増加の一途をたどる一次資料の需要の全てを一大学附属図書館が賄うことはもとより不可能であり、情報資料の共有の原則に従い、他大学図書館との間の相互協力体制を更に強化することにより、利用者の要求に応えたいと思っております。

次に、利用者への学術情報提供に関する図書館職員のサービスであります。現在、多くの研究者から好評をえている文献情報検索システムについては、その内容の充実とサービスの向上に務め、予想される需要の急増に十分対応できるよう準備を進めております。また、図書館職員は、専門職としての自覚のもとで、自らの研修を怠ることなく、情報過多の中でやゝもすれば適切な情報の選択に戸迷い勝ちになる利用者のよき相談相手として役立ちたいと願っております。図書館では、急増する各種業務を限られた人数の職員で効率よく処理するため、業務の機械化に積極的に取り組みつゝあります。これにより、日常業務の省力化を図り、余力を利用者のサービスに当てる一方、機械化により蓄積された各種データの利用者への還元、および他大学図書館との情報交換の促進に役立てたいと考えております。

新しい転機を迎えた本学において、附属図書館に課せられた任務は益々重要となって参りました。図書館全職員は、深く思いをここに致し、一致協力して業務に励み、利用者へのサービスを通じて、本学の発展に幾分でも寄与したいと願っております。どうか、今後とも一層の御支援と御鞭撻を賜わりますよう御願い申し上げます。



POS（問題志向型システム）について

中 木 高 夫

滋賀医科大学附属病院では開院以来、全面的にPOSを採用し、また学生教育もPOSを用いてBed-side Teachingを行うなどPOSに積極的に取り組んでいます。さらに、滋賀県医師会も独自に病歴改革を企画され、学術委員の饗庭先生を中心にPOSを取り入れて着々と成果をおさめられています。こうした状況からPOSによる医療体系を県全体が協力して作って行くといったことも夢物語ではないという気がします。図書館を利用される皆様も、これから「POS」という言葉を耳にされる機会が増えるかとも思いますので「POSとは何か」ということについて概説を試みます。

POS（問題志向型システム）とは？ —
医療を行っていく場合、以前から私達医師には一定の方法がありました。すたわち（１）問診身体所見、検査など必要な情報の収集、（２）自分のもっている医学知識をフルに活用して行う集めた情報の解釈、（３）解釈に基づいて、患者の心身の機能低下を来たす問題の明確化、（４）問題の解決、という一連の過程を経て患者の治療にあたっていたわけです。しかしながら、日常的にこのような過程を確実におさえて何人もの患者の医療を行うことは、各人はともあれ、われわれのような凡人には大変なことでした。そこで、なんとかこの医療の方法論をシステム化して能率をあげようと考案されたのがPOS（Problem oriented system）です。

POSは、基本的には従来の方法と同じ筋道をとりますが、最大の特徴はプロブレムリストを作ることにあります。これは、その患者につ

いて医療で取扱う、いくつかの問題をリストアップしたもので、私達医療従事者は毎日、その問題一つ一つについて情報を集め、評価し、解決のための実行計画をたてます。そのリストは経過中に適時修正され、医療の方向はより良いものへと導かれて行きます。このように毎日問題リストをScan（走査）して一つ一つ検討するので、医療のレベルは問題一つ一つに集約され適切な問題を取りあげることがキーポイントとなります。つまり、問題をどうとりあげるかということで名医と迷医の差がきまるというわけです。

プロブレムとは？ — 従来、医療で取り扱う問題とは身体的（一部精神的）な面に限られていましたが、心身の機能低下を来たす問題とは何も身体的なものだけに限らず、社会経済的、心理精神的な面からも起こりうるものです。POSでは解決すべき問題として医学的、精神的、社会的と3つの分野に十分に目をくばるように教えています。当然これに対応して、医療のとっかかりである情報の収集も従来の主訴、現病歴、既往歴、家族歴、身体所見、検査だけでは様相を異とし、患者の生活習慣、仕事、環境（心理的、社会的、生活的）などを知るための患者プロフィールと患者の関心外の身体症状などをチェックする、各器官別の系統的質問が加わり、3つの分野における問題が明確に把握できるようになりました。

SOAPとは？ — POSとはSOAPだと思っている人が多いのではないのでしょうか。そう短絡されてはこまるのですが、SOA

Pとは経過記録を書く際の記録方法の一部です。前に述べましたように、POSでは毎日問題リストに従って、一つ一つの問題ごとに検討して行きます。まず、今日一番にとりあげるべき問題について、患者の言葉に耳を傾け（S：Subjective）、身体所見や検査などのデータを集め（O：Objective）、SとOについて評価し（A：Assessment）、その問題を解決するための計画（P：Plan）すなわち診断計画、治療計画、患者教育計画をたてます。さらに、次に重要な問題について……、と順次問題ごとにS、O、A、Pの順に記録して行くわけですから、従って必ずそれぞれの問題についてその作業をした人の考えが書かれますので医療の方向性はすぐに理解できます。

チーム医療とは？ — このように、患者のもつ医療上の問題を一つ一つ解決することが医療の目的であると明らかにされると、従来のように医師は病気をなおす、看護婦は病院での患者の日常生活を援助する、薬剤師は薬局に閉じこもってひたすら調剤する、というような互いにそっぽを向いて仕事をするということは何と悲しく、つまらないことでしょう。もともとPOSはシステム化するにあたり、かなり厳格に記録の形式を規定しています。このことは記録を利用するにあたって形式が整っているために非常に読みやすいというメリットを与えます。さらに必ずAssesment（評価）を書きますので、書いた人の考えがよく理解できます。この読みやすく理解しやすい記録を軸に医師や看護婦、薬剤師などが一致団結して患者の問題の解決にあたれば素晴らしいことではないでしょうか。他人が読みやすい医療記録を書くといった思いやりが、患者にかかわってくる人すべてが一貫した方向性で医療にあたるという結果を生み出します。

POSを勉強するには？ — このようにPOSは論理的で、能率的で、かつ患者中心の医療体制の幹をささえ、患者の問題の解決のため健康従事者が一致団結してあたる軸となり、また読みやすく理解しやすい記録ができあがることから監査修正が簡単に行え教育効果が高いものであることが少しは理解して頂けたかと思いますが、さらに勉強してみようという人のために入手しやすい文献を紹介します。

＜和書・翻訳＞

1) **Weed, L.L.** (紀伊国献三, 他訳): 診療記録
医学教育, 医療の革新, 医学書院, 1973

(Weed による原著。すべてはここから始まった。)

2) **日野原重明**: POS—医療と医学教育の革新のための新しいシステム, 医学書院, 1973

(日本でのPOSの原点。実施してみても疑問に思ったことはすべてここに書かれている名著。但し熟読が必要。)

3) **日野原重明, 他**: POSの基礎と実践—看護記録の刷新をめざして, 医学書院, 1980

(待望の具体的な学習書。これからは始める人はこれを。)

4) **Woolley, F.R., et al** (日野原重明, 他訳):
看護のためのPOS, 医学書院, 1978

(高等な看護の訓練を受けているナースのために書かれた。しばらく実施してから読むとなるほどと思う。)

5) **Lewis, L.** (高木永子, 他訳): POSと看護計画, メジカルフレンド社, 1979

(看護過程とPOSを対比し看護を行って行く上での考え方を述べている。日本でもこの観点での発表が多い。)

6) **Johnson, M.M., & Davis, C.** (矢野正子訳):
看護アセスメントと問題解決, メジカルフレンド社, 1979

(看護婦が取り扱うべき問題のを見つけ方について書かれている。)

雑誌では、看護関係に年に数編はPOSについて論じられている。看護学雑誌5月号に本学のPOSの特集が組まれている。

<洋書>

- 1) **Petrie, J. C. & McIntyre, N.** : The Problem Oriented Medical Record (POMR), Churchill Livingstone, 1979

(英国におけるPOSの現状と対策が語られている。英国の医療システムとも関連して興味深い。)

- 2) **Rakel, R. B. & Conn, H. F.** : Family Practice, 2nd ed Saunders, 1978

- 3) **Taylor, R. B.** : Family Medicine: Principles and Practice, Springer-Verlag, 1978

(上記の2冊は直接POSについて書かれたものではないが中の記述にはPOSのために章がさかれている。何よりも素晴らしいのはhome doctor専門医としての立場から医学を見なおしていることで、わが国では専門医としてのhome doctorになるための教育が欠如していることが痛感させられる。)

(内科学第2講座・助手)

シリーズ 文献調査のために〔5〕

— 索引・抄録誌紹介 —

CURRENT CONTENTS

— 雑誌最新号の週刊の目次速報誌 —

I Current Contents とは

Current Contents (CC)はアメリカのフィラデルフィアにある Institute For Scientific Information (ISI) 社により1958年より週刊で発行される目次速報誌である。これは、多数の雑誌の目次を原形のまま集めて、編集・発行されるもので、現在学問分野別に次の7つの編に分けて刊行されている。

- 1) Agriculture, Biology & Environmental Sciences (創刊 1970)
- 2) Arts & Humanities
- 3) Clinical Practice (創刊 1973)
- 4) Engineering, Technology & Applied Sciences (創刊 1970)
- 5) Life Sciences (創刊 1958)
- 6) Physical, Chemical & Earth Sciences

(創刊 1961)

- 7) Social & Behavioral Sciences

(創刊 1969)

このうち当館で受入れているものは、

— Life Science (LS)

— Physical, Chemical & Earth Sciences (PC&ES) の2編である。

ISI社では、収録対象となる雑誌をその発行前に特別のルートで集めてCCを編集し、毎週きまった曜日に特約の航空便で世界に向けて発送している。原雑誌が出版されてからそれがCCに掲載されるまでの時間的遅れはだいたい1~2カ月であるので、速報性はかなり高いといえる。外国雑誌が船便で送られてくる場合、原雑誌が国内に届くよりも速く、CCに掲載されていることも多い。

II 構成

CCの各号は、本体たる目次集の部分と、
Weekly Subject Index ; Author Index &
Address Directory ; および Publisher's
Address Directory より成る。

1) 目次集の部分 (本体)

各編ごとにさらにいくつかの分野に分類して
各雑誌の目次が原形のままの形で収録される。

(図1)

- CONTINUED* AMER J CLIN PATHOL 75(1)81
- 106 **Detection of Cryptococcal Antigen. Comparison of Two Latex Agglutination Tests**
Carol A. Kauffman, Alice G. Bergman, Perry J. Severance, and Kenneth D. McClatchey
- 110 **Lactic Acid in Urine of Children with Lower and Upper Urinary Tract Infection and Renal Obstruction**
Itzhak Brook, A. Barry Belman, and Guido Controni
- 113 **Infections Caused by *Actinomyces viscosus***
Robert H. K. Eng, Michael L. Corrado, Dennis Cleri, Charles Cherubin, and Ellie J. C. Goldstein
- CASE REPORTS**
- 117 **Light- and Electron-microscopic Study of Clear Cell Chondrosarcoma**
Tullio Faraggiana, Blanka Sender, and Paul Glicksman
- 122 **Functional Differentiation in Acute Monoblastic Leukemia**
Lewis Glasser
- LETTERS TO THE EDITOR**
- 127 **Pathogenesis of Legionnaires' Disease Pneumonia**
Donato Fumarola
- 127 **Histochemical Estrogen Receptor Assay**
Jeffrey Russell, Howard A. I. Newman, and Hari M. Sharma
- 128 **The Authors' Reply**
Louis P. Pertschuk and Eric Gaetjens
- 129 **Prostatic Histogenesis of Metastases**
Richard J. Ablin
- 130 **Effects of Heparin and Protamine on Coagulation**
Robert J. Glowitz
- 130 **The Author's Reply**
Arundhati Perakash

LA319

Developmental Neuroscience

S. Karger

Articles and Abstracts in English
VOL. 4 NO. 1 1981

- Embryonic Development of the Nucleus Isthmo-Opticus in the Chick: A Golgi and Electron Microscopic Study**
Angaut, P.; Raffin, J.-P. (Suresnes/Paris) 1
- Maturation of Sympathetic Neurotransmission in the Rat Heart. IV. Effects of Guanethidine-Induced Sympathectomy on Neonatal Development of Synaptic Vesicles, Synaptic Terminal Function and Heart Growth**
Bareis, D.L.; Morgan, R.E.; Lau, C.; Slotkin, T.A. (Durham, N.C.) 15
- Molecular Forms of Acetylcholinesterase in the Developing Chick Visual System**
Villafruela, M.J.; Barat, A.; Manrique, E.; Villa, S.; Ramirez, G. (Madrid) 25
- **Effects of Brain Extracts from Chick Embryo on the Development of Astroblasts in Culture**
Pettmann, B.; Labourdette, G.; Devilliers, G.; Sensenbrenner, M. (Strasbourg) (37)
- Unaromatized Androgen is Taken Up by the Neonatal Rat Brain: Two Receptor Systems for Androgen**
Sheridan, P.J. (San Antonio, Tex.) 46
- Effect of Amphetamine on the Metabolism and Incorporation of [³H]-Thymidine into DNA of Developing Rat Brain**
Bédek, G.; Hahn, Z. (Pécs) 55
- Specific and Artefactual Cellular Localizations of S 100 Protein: An Astrocyte Marker in Rat Cerebellum**
Ghandour, M.S.; Langley, O.K.; Labourdette, G.; Vincendon, G.; Gombos, G. (Strasbourg) 66
- Ontogeny of Membrane-Bound Protein Phosphorylating Systems in the Rat**
Holmes, H.; Rodnight, R. (London) 79

CURRENT CONTENTS* LS, VOL. 24, #9, MAR. 2, 1981
1981 by ISI*

189

図1. 雑誌のContents 掲載例

LS編では生命科学の1,070以上の雑誌を、PC & ES編では物質科学分野の750以上の雑誌をカバーしているが、これらの雑誌の発行時期はそれぞれまちまちであるので、CCの各号に各編がカバーするすべての雑誌が収録されるわけではない。

そこで、CCの各号の目次には、その号に収録された雑誌およびその巻号のリストが掲載される。またこのリストの後にはCCの収録雑誌の変更（追加・削除等）のお知らせの欄がある。

なお、雑誌の目次集の前には、“Current Book Contents:” といって、新刊の単行本の目次も掲載されている。

2) Weekly Subject Index

CC各号に収録された雑誌および単行本に掲載された著作のタイトル中のキーワードをアルファベット順にリストし、各キーワードのもとにCC当該号の頁数とそのキーワードを含む著作が掲載されている雑誌または単行本の頁数が記されている（図2）。

ASTERO	ATRIA	AUTO-R	AWAREN
CC Pg J Pg	CC Pg J Pg	CC Pg J Pg	CC Pg J Pg
ASTEROID 27 648 650 654	ATRIA (cont) 96 P191	AUTO-RADIOGRA PHIC 75 309 89 157 119 658 179 265	AWARENESS (cont) 176 1
ASTHMA 148 329 151 440 153 150 154 70 157 12	ATRIAL 111 P 65 164 657 692 165 127 131	AUTO-RADIOGRA PHY 71 79 122 G 69	AXIALLY 28 799 54 659
ASTHMA-TREATM ENT 174 84	ATRIOVENTRICUL AR 165 127 165 108	AUTO REGULATI ON 122 E 37	AXIS 141 39 163 31 171 1
ASTHMA, BRONC HIAL 127 383	ATRIOVENTRICUL AR-BLOCK 164 699	AUTOAGGLUTINA BILITY 87 195	AXON(S) 91 799 111 P 69 191 257 191 567 627
▶ ASTROBLASTS 189 37	ATRIUM 103 687 111 57	AUTOCHTHONOU S 138 414	AXONAL 67 709 91 733
ASTROCYTE 189 66	ATROPHY 34 71	AUTOGENOUS 162 2	AXONAL-TRANSP ORT 111 P 57 191 681
ASTRONOMY 30 527	ATROPINE 88 429 95 P131 P148	AUTOGRAHA-CA LIFONICA 88 309	AXOPLASMIC-TR ANSPORT 190 71
ASTRONOMYS PD 903	ATTACHING 85 270	AUTOGROUPER 106 5	AZADIRACHTA-IN DICA 91 1077
ASYMMETRIC 36 2635 42 559 59 309 331	ATTACHMENT(S) 173 681 182 155	AUTOLYSIS 116 729 165 120	AZAPROPAZONE 180 406
ASYMMETRIES 180 30 196 637	ATTACK(S) 29 506 65 29	AUTOMATED 38 244 75 338 426	AZATHIOPRINE 104 155 163
ASYMMETRY 68 111 196 645 199 391		AUTOMATED 93 119 158 391 401	AZIDE(S) 42 220 52 2472
ASYMPTOMATIC 151 419 155 95		164 215	AZIOFURANS

図2. Weekly Subject Index

例えば、図2の中の

ASTROBLASTS

189 37

は、CC当該号の189頁をみれば“Astro-blasts”というキーワードを含むタイトルの論文を掲載する雑誌の目次がはじまっているということを示す。次にその目次に眼を通し、37頁からはじまる論文タイトルをみれば、その論文が求めるものであることがわかるようになっている。（図1）

3) Author Index & Address Directory

CC各号に収録された雑誌および単行本に掲載された著作の第1著者の氏名とその住所を、氏名のアルファベット順にリストしている（図3）。

MOSCOW, USSR	26*
PETRUS N	197
PETRYSEK NG	197
UNIV BRITISH COLUMBIA, DEPT ANTHROPOLO SOCIAL, VANCOUVER, BC CANADA V6T 2B1	
PETTI MC	132
UNIV ROME, INST HEMATOL, I-00161 ROME, ITALY	
PETTIGREW JC	173
UNIV PENN, SCH DENT MED, DEPT ORAL, MED, PHILADELPHIA, PA, 19104, USA	
▶ PETTMANN B	189
REPRINT	
SENSENBRENNER M, CNRS, CTR NEUROCHIM, F 67085 STRASBOURG, FRANCE	
PETRIAT JP	119
REPRINT GARNIER J, UNIV PARIS 11, CTR ORSAY, INRA, BIOCHIM PHYS LAB, F 91405 ORSAY, FRANCE	
PFEIFFER B	127

図3. Author Index & Address Directory

著者の氏名の右側の数字は、その著者の著作を掲載する雑誌または単行本の目次がCC当該号のその頁からはじまるということを示す。

この索引中、頁数のあとに*印のついているものは、雑誌または単行本中に著者の住所が記

共著者がリプリント請求先となっている場合は、第1著者の氏名のもとに、“REPRINT: 共著者の氏名、住所”という形で表記される。

CC各号に収録された雑誌の出版社名のアルファベット順にその住所を掲載している。

CCの本体たる目次集の部分で、雑誌のタイトル中に出版社名が含まれていない場合は、ISI社において付記している。

CCの各編がカバーする全雑誌のタイトル、出版社及び所在地と、Current Book Contentsに収録されたシリーズもののタイトルのリスト年2回掲載される。ただし、常に新しい雑誌が追加されているので、このリストは決定的なものではない。

過去4カ月間にCCの当該編に収録されたすべての雑誌のタイトルおよび巻号のリスト(図4)。年3回掲載される。

JOURNAL VOL	ISSUE	CC	NO	PAGE	JOURNAL VOL	ISSUE	CC	NO	PAGE	JOURNAL VOL	ISSUE	CC	NO	PAGE
BOL REV CAMBRIDGE PHIL SOC					BOLL IST SIEROTER MILAN					BRIT J OBSTET GYNACOL				
55	# MAY2	42	136		59	# 3		45	152	87	# 7		35	160
										8			39	202
					BRAIN					9			44	151
* BIOMATER MED DEV ARTIF ORGAN					103	# JUNP2	39	214		10			49	133
dropped					SEPP3			49	166					
					BRAIN BEHAV EVOL					BRIT J OPHTHALMOL				
BIOMATERIALS					17	# 4		36	223	64	# 5		36	208
1	# 3		37	152						6			38	185
								45	201	7			39	180
4			50	119						8			43	179
					BRAIN LANG					9			49	138
BIOMED EXPRESS					10	# 2		35	193	10			50	148
33	# 4		44	119	11			51	182					
					BRAIN RES					BRIT J PHARMACOL				
BIOMED MASS SPECTROM					195	# 2		36	221	69	# 4		38	100
7	# 4		39	59	196			37	217	70			41	94
5			42	53	2			39	220	2			45	123
7			51	50	197			38	219	3			52	75
					2			39	221					
BIOMED RES					1			41	180	BRIT J PHIL SCI				
1	# 3		36	150	2			41	182	31	# 2		40	36
4			39	160	199			43	193	3			46	40
5			50	125	2			44	175					
					200			45	202	BRIT J PSYCHIAT				
BIOMEDICINE					2			47	125	137	# AUG		38	213
32	# 3		48	131	201			47	126	OCT			36	228
					2			47	127	SEP			48	149
BIOMETRICS					202			48	177				44	182
36	# 3		49	36	BRAIN RES BULL					BRIT J PSYCHOL				
										71	# AUGP3		41	185

各々の雑誌の巻号数は、その雑誌の巻号を掲載した C C の号数および頁数につづいて表示される。Supplement の場合は、号数のすぐあとに “ S ” と表示される。

* 印のついたタイトルは、その期間内には収録されなかったことを示す。

誌名変更があった場合は、相互参照がつけられる。

- 1) 自分の関心のある雑誌の目次を継続的に
フォローする場合 — CCの新しい号が
到着する毎に、CCの目次に眼を通し、目
的とする雑誌がその号に収録されているか
どうかを確認する。
- 2) ある分野について、どのような論文が出
版されているかを Browse する — CC
の各編はさらにいくつかの分野に分類して
雑誌の目次を掲載しているので、該当分野
のところに眼を通す。
- 3) あるキーワードをタイトル中に持つ論文
を探す — Weekly Subject Index を利
用する。
- 4) ある第1著者の論文を探す、または著者
のアドレスあるいはリプリント請求先を調
べる — Author Index & Address
Directory を利用する。
- 5) ある雑誌についてのより詳細な情報を知
るため、あるいはその雑誌を購読するため
に出版社の住所を調べる — Publisher's
Address Directory を利用する。

(岩本記)

☒ 4. Triannual Cumulative Index

お知らせ

学術雑誌所蔵データについて

本学所蔵の学術雑誌はタイトル総数 1,004 に及んでいるが、その所蔵についての詳細なデータは、事務用としてはカード形式で何とか作成してはいたが、十分に整理されていなかった。そのため、所蔵についての照会も満足のいくものでないのが実情であった。

そこで、現在では本学共同研に設置のコンピュータ (YHP 3000) を用いて、とりあえず利

用の多い欧文誌を手はじめに端末器により、所蔵データを 入力している。これは、必要とする時にデータを出力したり、あるいは、出力したものを冊子体目録として利用者に提供することを予定している。目下のところ、入力作業の中期の段階にあるが、完了しとまったものができた時にはお知らせすることとしたい。

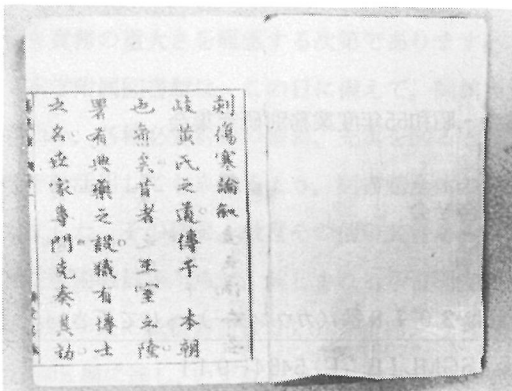
— 古医書へのご招待 —

傷寒論 (張仲景著 正徳年間翻刻 全一冊
河村文庫)

金匱要略 (張仲景著 江戸時代翻刻 全一冊
河村文庫)

いずれも、漢方の基本的聖典として、江戸時代の漢方医の尊崇を受けてきた治方書。

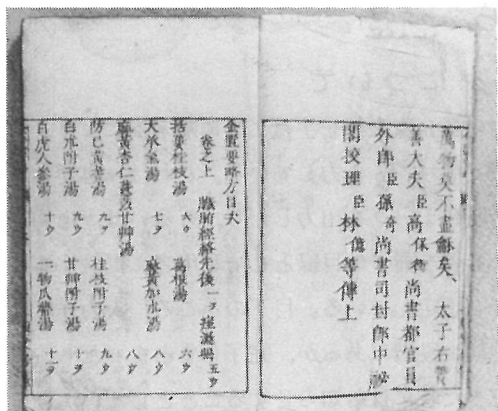
傷寒論は、およそ漢方に心得のない時代の若い諸君でも、その名だけは聞き知っているであろう。医師の免許制度のなかった江戸時代には傷寒論一冊さえ読んでおけば、大手を振って医門が張れたといわれている。自分の名すら書けない医師が市井に溢れていた時代であるから、傷寒論が読めればたいしたものであった。



通説では、著者は後漢の張仲景で、晋の王淑

漢方の基本的聖典

和が註文を入れたとされている。「名医録」によると、張仲景は南陽の人で、名を機といった。長沙の太守を勤めたが、医術は張伯祖に師事しその腕は師より擢んでいたといわれている。傷寒論の自序には「(前略) 筆者の一族は、もとは 200 人を越えていたが、建安紀年 (AD 196 年) 以来、10 年も経ない内に 3 分の 2 の人が死亡してしまった。しかも 10 人中 7 人が傷寒 (伝染病にあたる) で歿している。一族の滅亡、挫折を救えない悲しさを感じ、古くから伝わる戒めや処方、素門、ハナ一難、陰陽大論、胎産藥録、平詠弁証に求め、傷寒雜病論 16 巻を作った。(後略)」とある。現在伝わっている「傷寒論」は、「傷寒雜病論」のうち、傷寒を扱った 10 巻を王淑和が編纂し直し、更に宗時代、再校正を受けた註本といわれている。「金匱要略」は、上述の「傷寒雜病論」の内、傷寒以外の疾患を扱った「雜病論」6 巻にあたると伝えられているが、「傷寒論」「金匱要略」共に、仲景の原本とは多いに異っている。唐時代には、傷寒・雜病を合わせ記した「金匱玉函」という本が世に出たが、その抜萃である「金匱玉函要略」が今に伝わっている。



傷寒論が我国にもたらされたのは、室町時代といわれている。室町時代後期、坂浄蓮が明本を持ち帰ったのが最初といわれているが、傷寒論を系統的に研究したのは、吉益東洞を嚆矢とする。その後、中神琴溪（近江出身）など古医方派といわれる医家に、金科玉条の如くもてはやされた。江戸時代の後半になると、傷寒論の矛盾・行き詰りを打開するため、江戸の多紀氏の筆頭に考証学派といわれる学派が現れ、傷寒論をはじめ古今の著者を考証、折衷した理論を確立したが、所詮実地の臨床と離れた机上の空論に始終したため、明治時代になって蘭方にと

って代られてしまった。

それにしても、「傷寒論」・「金匱要略」が中国および我国の医学に与えた影響は計り知れない程大きく、近年になって傷寒論を再考する動きがあるのも、宣なる事と思われる。

本学には、「傷寒論」・「金匱要略」の註本として、「傷寒尚論編」（喻嘉言著 江戸時代翻刻全4冊、この本を名古屋玄医が読んで感激し、傷寒論を世に流布したとも伝えられている）「傷寒論集成」（山田宗俊著、寛政元年刊 全10冊）「傷寒論国字解」（吉野了作著、明和8年刊 全6冊）、「鑑揚傷寒論」（森下驥著、文政4年刊 全3冊）、「傷寒論後條辯」（新安程著、宝永元年翻刻 全6冊）、「傷寒論正義」（写本）、「傷寒方論」（元禄年間翻刻 全5冊）、「傷寒名数解」（中西惟忠著、安永3年刊 全5冊）、「傷寒論辯正」（中西惟忠著）、「金匱要略精義」（写本 吉益信夫著、全1冊）、「金匱玉函要略論註」（多紀桂山著 文化8年刊 全6冊）、「編註金匱要略」（沈目南著 享保17年刊 全5冊）などがある。

（石黒記）

図書館の活動（55・11～56・3）

- 55・11・5 近畿地区国公立大学図書館協議会・図書館施設に関する研究集会
（大阪樟蔭女子大学）
- 11・18 第20回図書館委員会
- 11・26 近畿地区国公立大学図書館協議会・昭和55年度業務別研究集会
（京都大学）
- 56・3・17 図書館業務機械化検討のための打合せ会
（京都大学）

◎ 来館者の呼出しは2078番（カウンター）へして下さい。

Library News No 8（1981年12月）

Telex SGMLIB J 5464-911

発行：滋賀医科大学附属図書館

〒520-21 大津市瀬田月輪町 電話 0775-48-2076